

## これまでの「市場のあり方」についての検討及び取組み経過

千歳市公設地方卸売市場（以下、「千歳市場」と略す。）は、昭和 48 年の開設以来、安心して安全な生鮮食料品を市民に提供する役割を果たしてきたが、卸売市場を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う人口減少の進展等による食料消費の量的変化や消費者ニーズの多様化、卸売市場を経由しない取引の増加など流通構造の変化により、千歳市場の取扱量、取扱金額の減少傾向が続いたことから、これまで「市場のあり方」について、次のような検討や取組みが行われて来た。

### 平成 22 年度

近年の流通構造の変化や消費者ニーズの多様化などにより、卸売市場の取扱量、取扱金額が減少傾向にあることから、千歳市場の今後の進むべき方向性と運営のあり方等を検討するための基礎資料とするため、「千歳市公設地方卸売市場調査検討業務」をコンサルタントに委託し、調査結果をまとめた。

#### 【今後の市場のあり方】

- ・市場財政の健全化と市場運営の円滑化に取り組む必要である。
- ・民間の経営手法が期待できる運営形態への段階的な移行が効果的である。
- ・社会経済状況や流通環境の変化を踏まえ、あり方及び方向性について今後も引き続き検討が必要である。

### 平成 23 年度

「千歳市公設地方卸売運営委員会」では、千歳市場の今後の方向性についての本格的な議論を合計 6 回行い、その結果を「市場の今後の方向性に関する意見報告書」（資料 4 - 2 参照）にまとめ、市長へ提出した。

#### 【今後の市場の運営形態】

- ・食の安全・安心に対する市民の期待に応えるために、公設市場としての役割や信用力を担保する必要があり、いかなる手法であっても、市が市場運営に関与することを念頭に進めるべきである。

### 平成 24 年度

市は市場のあり方に関する庁内検討会議を合計 6 回開催し検討した。

#### 【庁内検討会議の検討結果における主な意見】

運営委員会意見報告書の項目	検 討 結 果
千歳市場の存続について	千歳市場は、JA 道央をはじめとする団体・個人生産者の出荷先となり、また大型スーパーをはじめとする 96 事業者の買受人による市民への生鮮食料品供ルートとして機能している。

	市場の業務には、市内の多くの事業者が関与しており、市内経済の振興や雇用の確保に貢献している。
売上高向上策(活性化策)について	売上高の向上効果が見込める新規事業展開や新規買受人の開拓、販路の拡大について、市場関係者で具体策を検討する必要がある。
	売上高向上策の検討・実施に当たっては、市場内に協議・研究の場を設置し、戦略的・効果的な取組が可能となるような体制を構築すべきである。
市場運営手法及び施設整備のあり方について	売上高向上策取組期間については、現状の体制を維持し運営を継続する。
	市場における代金決済機能を確保するため、市場関係者が代金精算会社の現状と課題等を認識し、そのあり方について協議を継続する必要がある。
	施設整備については、市場機能の維持及び安全面の確保の必要性から、市が必要な整備を実施すべきであるが、大規模修繕や新規施設の整備については、売上高向上策の成果を踏まえ実施を検討すべきである。
千歳市場の今後の方向性について	千歳市場の活性化を図り、取扱高の増加を図るため、開設者と市場関係者が一体となり目標を掲げ計画的に売上高向上策に取組む必要がある。 なお、売上高向上策の取組結果が千歳市場の評価の重要な要素であることを認識し、危機感をもって取組むことが求められる。

このような検討を進めた結果、平成 25 年 4 月に平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 か年間の取組目標を定め、開設者である市及び市場関係者が売上高向上策に取り組み、平成 28 年度に、取り組み結果を検証し、市場の存廃を含めた千歳市場の評価を行うこととなった。

#### 平成 25～27 年度

開設者である市及び市場関係者は、平成 25 年度から平成 27 年度までの 3 年間、水産物部門の再開をはじめとする各種事項に取り組み、その結果、市場の取扱量の増加など設定した取組目標を達成した。

#### 【3 か年間の取組目標と取組結果】

##### (1) 市場の取扱量の増加 (単位: トン、%)

H24 年度 (基準年度)	H25 年度	基準年度比	H26 年度	基準年度比	H27 年度	基準年度比
6,214	6,422	103.35	6,468	104.09	6,263	100.79

##### (2) 卸売業者の従業員 1 人当たりの取扱金額の増加 (単位: 千円、%)

区分	国が示す 水準	H25 年度	水準比	H26 年度	水準比	H27 年度	水準比
青果部	130,000	137,379	105.7	136,550	105.0	133,132	102.4

##### (3) 青果物の地域内供給率の向上 (単位: %、ポイント)

H24 年度 (基準年度)	H25 年度	水準比	H26 年度	水準比	H27 年度	水準比
41.3	43.3	104.8	44.1	106.8	42.9	103.9

平成 28 年度

「千歳市卸売市場運営委員会」では、3年間の売上高向上策の取組結果を評価・検証した上で、今後の千歳市場のあり方について合計6回の検討を行い、平成29年2月に「市場のあり方に関する意見報告書」（資料4-3参照）を市に提出した。

【意見報告書の概要】

項目	意見
市場の存廃について	<p>3ヵ年間の取組結果は取組目標を上回り、成果があった 市場を廃止した場合、市民生活への影響が懸念される 千歳市の優位性を生かし、市場の発展の可能性が十分にある 市内生産者の出荷先となっているほか、卸売等の業務に多数の関係者が従事する雇用の場となっている</p> <p>以上のことから、千歳市場を存続することが望ましい。 ただし、流通環境が変化することから、その都度、市場のあり方等について検討し、対応する必要がある。</p>
運営形態について	<p>コスト削減や民間のノウハウを活用した効率的な運営を行うことができる 「指定管理者制度」を導入することが望ましい。</p>
施設・設備について	<p>市場機能の維持に必要となる修繕を優先的に実施するとともに、費用対効果を踏まえた改修、更新等を実施することが望ましい。</p>

また、市は庁内検討会議を合計5回開催し、次の検討結果となった。

検討項目	検討結果
市場の必要性について	<p>千歳市場の必要性については、肯定的な意見と疑問視する意見に分かれたが、市場の必要性については一定程度理解する。ただし、多額の投資が伴う施設整備については、慎重に検討する必要がある。</p>
市場の存廃について	<p>卸売市場の公共性を踏まえると一般の公共施設とは重みが異なり、簡単に廃止という結論にはならないことから、市場は直ちに廃止とはしない。ただし費用対効果の面を考慮し、多額の投資が必要となった場合は廃止の可能性がある。このため、10年～15年程度市場を存続させた後、そのときの市場を取り巻く環境を踏まえ、再度、市場のあり方を検討する。</p>
今後の運営形態について	<p>現時点では、指定管理者制度導入にはコスト削減効果や応募する事業者の有無などについて、十分に検討する必要がある。なお、指定管理者制度を導入した場合、その先の民営化について検討を行う。</p>
施設整備について	<p>今後の流通形態の変化を考慮し、当面、必要最小限度の機能維持を図る改修（屋根の修繕（防水シート）、冷蔵庫・冷凍庫の更新等）を行い、10～15年後に抜本的な施設整備に関する検討を行う。</p>

平成 29 年度

「千歳市卸売市場運営委員会」及び庁内検討会議の結果を踏まえ、市として、千歳市場の今後のあり方を次のとおり決定した。

**市場を存続する。**

3年間の取組結果は基準年度を上回る実績となっており、また、道内 24 卸売市場との災害時相互応援協定の締結により、災害時における生鮮食料品の市民への供給確保など、市場機能の有益性が向上している。

このほか、更なる取扱量の増加が期待でき、流通拠点としての役割を担い続けるものと評価し、市場を存続する。

**指定管理者制度の導入の可能性を検討する。**

市場運営に係る運営形態については、効率的な運営や行政負担の軽減を図るため、出荷者（生産者）や市場関係者の意見を踏まえながら、指定管理者制度の導入の可能性を検討する。

**緊急的に整備を行う設備の修繕等を実施する。**

千歳市場の施設・設備の修繕・更新については、当面、市場機能を維持するうえで「緊急的に整備を行う設備」の修繕等を実施する。

それ以外の設備については、指定管理者制度導入にあたり、市が一定の整備を行うことが条件になること（事業予定者の意向）も想定されることから、5年後に、市場取扱量の推移や市場を取り巻く環境、費用対効果を勘案し、整備の優先順位や整備方法（建て替えを含む）、実施時期を決定し、必要な修繕・更新を行う。

ただし、社会・経済情勢（景気動向）や自然状況の変化に起因しない理由で、現状よりも取扱量・額が減少する、または地域内供給率（青果物）が低下する傾向が続く場合、そのほか買受人が急激に減少した際などにおいては、その後の修繕・更新を中断し、新たな運営方法（市場関係者による自主的な運営・民営化）についての検討を始め、その是非を判断する。

市の方針決定以後の対応・取組について

ア 指定管理者制度導入に向けた検討について

課題や問題点の整理、他市の事例調査を実施した

イ 施設・設備の修繕・更新について

緊急的に整備を行った設備の修繕等については次のとおり

**<実績>**

- ・平成 29 年度 7,344,000 円（施設維持補修費）  
雨水等の漏水により電気設備の漏電による停電などが発生し、卸売事業者の業務に支障をきたしていたことから、屋根防水シートを更新
- ・平成 30 年度 23,436,000 円（施設維持補修費）  
経年劣化した定温設備、冷凍庫電動防熱扉、売場用温風暖房機を更新
- ・令和 3 年度 46,332,000 円（リース料） 月額 643,500 円×72 回  
冷凍設備を 6 年間のリース契約により更新し、10 月から使用を開始

**<予定>**

- ・令和4年度 予算要求中

屋根修繕（施設維持補修費）、冷蔵設備3基更新（リース料）

- ウ 開設者及び市場関係者による集荷力・販売力の強化等に関する取組の実施及び検討について

**<平成25年度～平成28年度>**

売上高向上を図る取組期間として、市場関係者で構成する市場活性化委員会において各種取組を行った。

**これまでの取り組み状況**

市場感謝祭

市場の日（毎月18日）

模擬せり

市場スイーツ・パン（地元高校・企業とのタイアップ）

軽トラ観光ちとせ市（地元団体との連携）

ビール祭りでのPR

料理教室

市場見学

子ども食堂への食材寄付

ブログ掲載

ちゃんと掲載 「市場からこんにちは」（青果卸 水産卸 組合 公社）

市ホームページ掲載

**<平成29年度以降>**

新たに市場拡大戦略会議を設置（会議は月に1～2回開催）し、以降、取扱量等向上に向けた事業や市民理解を深めるイベントなどを実施。

千歳市場感謝祭など市民へ千歳市場をPRする事業は実施しているものの、取扱量を増やす取組は、それぞれ社業が忙しいこともあり、会議を重ねても思うようにアイデアが生まれず、戦略策定に苦慮しているところである。

また、令和2年6月の業務規程制定に伴い、第三者販売についても今後議論を重ねる必要がある。